



くらしの助け合いニュース

全コーディネーター会議

～ 40年の歩みを踏まえて、「会」の5年後を見据えた行動を～

1月23日(金) きぬがさ会館にて全コーディネーター会議が開かれました。大雪の影響で両丹エリアのみなさんが欠席となり残念でしたが、地域コーディネーターと幹事、計28人が集まりました。

大谷大学の平尾良治先生(「会」立ち上げ時の元職員)の提案により、昨年12月の各エリアコーディネーター会議で行った『会員拡大と助け合いの活動の再構築のためのアンケート』の結果報告があり、現コーディネーターの年齢別の特徴やボランティア経験、活動状況の確認をしました。

その中で、40周年を機に京都生協全体に発信することや、

- くらしの助け合いの会は身近な家事援助活動だけに終わらず、地域とのネットワークをつくることも目的にしていると学びました。
- 平尾先生は、「会」の5年後を見据えて今から行動しなければならないと何度も強調され、私たちの背中を押してくださいました。



幹事会推進グループ 学修・研修チーム

2月3日(火) 御所南会議室 参加者20人 講師10人 社協職員2人

『見えにくさ、聞こえにくさに寄り添うコミュニケーション』開催

人は誰でも高齢や病気、けがによってハンディを抱える可能性があり、その時初めて段差や階段のような物理的バリア、無関心や偏見といった心のバリア、さらに学校の受け入れ態勢が整わず入学できないなど制度のバリア、災害時に必要な情報が届かない文化・情報のバリアに直面します。こうした現実を前に、障がいを個人の問題とせず、社会がどう変わるべきかを考えることが大切なのです。

手話グループの寸劇では、数字を指で示す、マスクを外してゆっくり話すなど、少しの寄り添いで表情が伝わり、コミュニケーションが図れることを学びました。

視覚障がい支援の方の「視野狭窄」「弱視」「視野欠損」などのロービジョン(Low Vision=見えづらさの状態)体験では、思いもよらない見え方に驚くばかりでした。

- 当事者の方々の体験談からは、医学的理解の変化や、進行する障がいと向き合いながらスマホや便利グッズを工夫して暮らす姿に引き込まれました。
- 誰もが安心して暮らせる社会づくりへ、自分にできる一步を考える大きなきっかけとなりました。



Q&A

Q: 見た目で障がいが分かりにくい事がありますが、どんな声掛けが良いのでしょうか?

A: 「なにかお手伝い出来ることがありますか?」「どうされましたか?」

※困っている時の動作で「困っている」かを聞いてほしい。これで距離が縮まる(当事者の声)。「大丈夫ですか?」の声かけでは、「はい、大丈夫です」としか答えられないそうです。

40周年実行委員会

これまで4回の会議を行いました。記念式典のための会場の予約が後日となるため、開催日が決まっていますが、「40周年記念冊子」の発行、「会」のエプロンをもう少し改良して製作しては?など、徐々に形が見えつつあります。

関心のある方、ちょっと覗いてみませんか? 「会」をみんなで盛り上げていきましょう! ☎075-465-6886 まで



★第41回総会について

2026年7月8日(水) ハートピア京都

※ 詳細は後日、ご連絡いたします。

★幹事&地域コーディネーターの公募

幹事&地域コーディネーターを公募します。
活動に関心のある方、本部までご連絡ください

★秋の募金のお礼

2025年秋のくらしの助け合いの会の募金にご協力頂き、ありがとうございました。秋の募金は、**448,772円**でした。会の運営のために大切にに使わせていただきます。

★春の募金にご協力をお願いします

「募金方法」 共同購入や個配の
3月4回~4月3回注文書で募金ができます

♥100円を一口として募金する場合

6ケタ番号記入欄に **294713** と口数を記入してください

♥ポイントを活用する場合

6ケタ番号記入欄に **279960** と口数(1口100円)を記入してください。

